

月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた 教育史研究を求めて

第106号 2023年10月15日

編集・発行 『月刊ニューズレター 現代の大学問題を
視野に入れた教育史研究を求めて』編集委員会
(編集世話人 富岡勝・谷本宗生)

連絡先 大阪府東大阪市小若江3-4-1

近畿大学教職教育部 富岡研究室

e-mail: tomiokamasa@kindai.ac.jp

HP (最新号とバックナンバーを公開中)

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/komiyama/gen-dai-kyou-ken/>

コラム - AIの未来、教育の未来-	小宮山 道夫	2
逸話と世評で綴る女子教育史(106) — 昭和時代のはじまり 裕仁(ひろひと)天皇の登場と私の思い —	神辺 靖光	8
1970年代の大東文化大学附属盈進幼稚園・小学校・中学校・高等 学校 - かつて存在した大東文化学園の設置学校 -	谷本 宗生	13
大正時代の女子高等教育(61) 日本女子体育専門学校——二階堂体操塾の開塾	長本 裕子	15
新制高等学校の補習科・専攻科の歴史的研究に関する覚(30) :『鳥取県公報』にみる鳥取県立高等学校の専攻科(4)	吉野 剛弘	19
子どもたちと考える校則③ -「校則の見直し」はいつから?-	八田 友和	24
旧制灘中学の教育目標と生徒の活動(3)	富岡 勝	29
体験的文献紹介(55) — 教育令、改正教育令と政界の転回 —	神辺 靖光	37
戦後・日本教育史研究にかかわる学会・研究会の回想 その1	神辺 靖光	43
刊行要項(2015年6月15日現在)		50
短評・文献紹介		51
会員消息		51

コラム
— AI の未来、教育の未来 —

小宮山 道夫
(広島大学)

はじめに

ChatGPT、使っていますか。ChatGPT は OpenAI 社が開発した生成系 AI とよばれる対話型の人工知能チャットボットで、2022 年 11 月の公開からわずか 2 か月でユーザー数が

1 億人を突破するという、今年爆発的に話題となった AI 技術ですね。ですから何かと耳にしたり、実際に利用してみたりした方も多いことと思います。

私も公開当時、最新情報が気になりながらも 2 月末まで業務で全く余裕がなく、触れることができず残念に思っていたところ、3 月 8 日になって ChatGPT を LINE で使えるサービス「AI チャットくん」の提供が開始されたと目にして、これ幸いとさっそく LINE で友達申請をして試してみました。ちょうど教務系の会議で ChatGPT 問題を話題にしていたこともあり、試用するには好都合でした。

試用最初の質問—ChatGPT の会話力と創作力—

最初に行った質問は「ChatGPT を使って作成された文章を見抜く方法がありますか」とした。するとわずか 1 秒もせず次の文章を吐き出した。

ChatGPT が使用されている文章を見抜くには、以下の手順が役立ちます。

1. 不自然な文章の構造: ChatGPT は自然言語処理システムであり、文章の構造や文法に対して自然な流れを持つように学習しています。不自然な文章の構造や語彙選択がある場合、ChatGPT を使った可能性が高いです。

2. 返答の返信速度: ChatGPT は、リアルタイムで会話を行えるように設計されていますが、コンピューターとの会話であるため、すぐに返答が返ってくることはほとんどありません。もし、瞬時に回答が行われている場合、ChatGPT が使用された可能性があります。

3. アルゴリズムによるパターン: ChatGPT は、機械学習アルゴリズムによって動作しているため、同じパターンの回答が何度も繰り返されることがあります。同じ回答が繰り返されている場合、ChatGPT が使用されている可能性がある。

4. 情報の不整合: ChatGPT が生成した文章は、一貫性があり、整合性があるように設計されています。もし、情報や文脈の不一致がある場合、ChatGPT が使用された可能性が高いです。

以上が、ChatGPT が使用された文章を見抜くための方法です。ただし、100%正確ではない可能性があるため、推測に基づいた情報として考えることが重要です。

論理的におかしなところがあるが、瞬時に4つのポイントを整理して回答してくる素早さに本当に驚かされた。

次に「平和とはなにか、平和について何ができるのか」をテーマとして、短歌を作ってください」と尋ねてみた。はじめは学生たちに課しているレポート同様に1200字程度の文章を書かせようかと思ったが、それではあまり面白くないので、AIの創作能力を測るため、「短歌を」と少しハードルを上げてみた。するとまた瞬時に次の回答をしてきた。「短冊や飾りを／つくる手を止めて /ほら、鐘の音／広がる空に向かい／平和を願おう」と。少し語呂が悪いので、「31文字前後で作ってください」と追加注文をすると、「無音余白 胸の内て響く 平和を切望」と返ってきた。さらに「1200字程度で解説してください」と重ねて聞くと、「この短歌には深い意味が込められています。簡潔な言葉で表現された平和への願いが、人々の感情に訴えかけ、多くの人々が平和に向けて手を取り合うことを呼びかけています。」とした上で、全819文字で解説を作成してきた。課題に完全には答えてはいないが驚くべき対話能力である。


迷わず嘘をつき正論も吐く

少し昔の情報について学習がされているのかどうか調べるために、「大学紛争を理解する上で必読の本を教えてください」と聞いてみた。すると「『大学紛争』(渡辺一

夫著)は、日本の大学紛争の歴史と背景を明確に解説しており、理解するための重要な書籍です。また、『1968』(中野晴行著)、『大学内部に潜む教育者たち』(森本哲郎著)、『大学制度と学生運動』(三橋洋一著)など、大学紛争について深く掘り下げた書籍もあります」と答える。聞いた事も無い書籍ばかり出てきたので驚いて「嘘ですよ?」と指摘すると、「申し訳ありません、私は誤った回答をしてしまいました。答えを正しくご案内できるよう、再度回答します」と述べた上で更にもっともらしい書名の嘘で塗り固めた回答をよこしてきた。あまりにあきれたので「これらの嘘はどのように作るのですか?」と聞くと、「偽情報や嘘は、様々な手法で作られます。以下は一例です」として、情報の改ざん、噂や偏見の拡散、写真や映像の偽造、誤情報を流すといった例示をした上で、「これらの手法によって、偽情報や嘘が拡散され続けることがあります。そのため、情報の信頼性を確認することが大切です。」と、嘘つきにかえって諭されてしまった。

2021年10月以降の情報は未学習—それでも嘘は吐き続ける—

「GPT」とは Generative Pre-trained Transformer の略だそうで、大規模言語モデル (large language model、通称 LLM) に基づいた学習によって訓練されるもののため、あらかじめ入力されていない情報は認知し得ない。そのため GPT-3.5 では 2021 年 10 月以降の情報には対応できないという。そこで最新の情報について尋ねてみた。「令和 4 年の日本の 18 歳人口における大学学部への進学率を男女別に教えて」と聞くと、「令和 4 年の日本の 18 歳人口は、男性が約 399,000 人、女性が約 372,000 人の合計約 771,000 人です。大学学部への進学率は、男女両方とも約 50%です。ただし、学部ごとに男女比が異なるため、全体的な進学率の差異はあるかもしれません」と即座に答える。すかさず「嘘ですよ?」と指摘すると、「申し訳ありません、誤った情報を提供してしまいました。私は人工知能であり、このような誤りを犯すことがあります。正確な情報を提供するよう努めます。また、悪意ある情報は提供いたしません。よろしくお願ひします」と珍しく殊勝な謝罪が返ってきた。それではと思い、「令和 4 年の学校基本統計から大学進学率を男女別に示して」と聞くと、「令和 4 年度学

校基本調査の男女別大学進学率は以下の通りです。男性： - 短期大学・専門学校：17.8% - 大学：30.6% 女性： - 短期大学・専門学校：23.4% - 大学：48.5% なお、学校基本調査では、日本の学校の全体的な統計情報が定期的に収集・公表されており、調査の結果から教育現場の課題などが明らかにされています」と平気で答える。「数値がでたらめですよね？」と問いただすと、「申し訳ありません、先程の回答は誤っておりました。令和4年度学校基本調査によると、男子の大学進学率は文部科学省が算出した推計値によると34.0%、女子の大学進学率は48.0%となっています」と臆面も無く言う(面があるのかどうかはさておき)。「それも違います」と返したところ、「ご利用いただきありがとうございます。本日の制限回数に到達しました  」と偶然に助けられた AI チャットくんに逃げられてしまった。

AI が語る「教育に最も大切なこと」と「人間が成し遂げるべき目標」

今年4月の教職必修の教育原理の授業の初日につかみとしてこの ChatGPT の話題をとりあげた。そして「教育において最も大切にすべきことは何ですか。その理由も含めて1200字程度で説明してください」と尋ねた時の結果も示した。文字数あわせのためか重複した文面が含まれるが、傾聴すべき点も含まれる。

教育において最も大切にすべきことは、生徒たちが自分自身の能力や可能性を十分に発揮できるよう、彼らの才能や興味に基づいた個別の支援と指導を行い、自己肯定感や自己評価を高めることだと考えられます。それはなぜかという、個々の生徒にとって自分自身を肯定され、自分の可能性についての自信を持つことができるようになれば、よりよい結果を出せるようになります。

教育者たちは、知識を伝授するためにオンラインのリソースやテキストブック、そして授業をこのスタイルに合わせることができます。それでも、この将来に重要なステップは、生徒たちが世界の可能性を探求し、自分たちが人間として成し遂げるべき目標を設定し、発展させることが重要です。生徒たちは、常に新しい単元を勉強し、課題をこなし、テストを受けることが求められ

ます。これは、学生の成功を保証する以上に、彼らにとって負担がかかることがあります。生徒たちにとっての最善の結果は、彼らが課題やプロジェクトに取り組み、自分自身の強みやよりよい方法を発見することを目指すことです。

教育におけるほかの重要な課題は、生徒たちが単に正しい答えを知っているということではありません。生徒たちは、自ら考え、問題を解決することが必要になります。生徒たちは、問題について考え、それに対して自分の見解を述べたり、自分が思う解決策を持ち出したりする必要があります。教育者たちは、生徒たちが自分自身を追求し、自分の考えを表現することができるよう、教育プログラムを用意する必要があります。

また、教育において最も大切なことの 1 つは、教育者が生徒たちにとって良い役割モデルとなることです。生徒たちは、教師や他の教育者が自分自身の目的や目標を追求する姿を見せてくれることで、彼らが自分自身を信用し、尊重するように思えます。教育者たちは、自分自身が教育に取り組むことができ、熱意ややる気を持ち、自分自身の素晴らしい目標を持つことが重要であると認識しなければなりません。

以上のことから、教育において最も大切にすることは、自らやりたいと思うことや自分にとって重要なことに向けたサポートをして、生徒自身が自己肯定感を高めながら、自己実現を目指すことができるような指導を行うことが重要であると言えます。

「目的」や「目標」という言葉が目立ったので、少し対象を広げて聞いてみた。「人間が成し遂げるべき目標は何でしょうか」と聞くと、こう返ってきた。

人間が成し遂げるべき目標は多岐に渡りますが、一般的には以下のようなものが挙げられます。

1. 幸福な生き方をすること
2. 社会に貢献すること
3. 自己実現をすること
4. 人間関係を築くこと
5. 知識や技術を習得し、自己啓発をすること

これらの目標を達成するためには、人間が持つ様々な能力や価値観が活躍する必要があります。ただし、人間が成し遂げるべき目標は個人によって異なるため、それぞれの人が自分自身の目的や価値観に基づいて生きていくことが重要です。

なかなか考えさせられる回答である。「皆さんはこの AI の作文を超えられますか」と学生たちに問いかけ、授業を始める。それまでどっと笑っていた学生たちの目が真剣味を帯びた瞬間だった。

AI 無しには生きてはいけない

筆者の大学時代の友人に大手建設会社で DX を任されている者がいる。後に人づてに聞くとテレビ番組などでも建設機械の自律・自動運転技術の最先端について先生役となって解説していたそうだ。その彼に先日話を聞いたところ、建設現場での人材不足は相当深刻であるとのこと。熟練の技を持つ人材は高齢化の一途、彼らのもとで学ぶ若手や環境もなく、かつて現場にあった技能の継承機能は失われた。安く集められた労働者を使うため、工事現場は素人に等しい者たちが寄り集まって作業をしているようなもので、いつ事故が起きても不思議ではない現状だそうだ。そこでかつての専門技術者たちが 10 年 20 年かけて獲得した熟練の技を機械に学習させ、寸分の狂いも無く再現できる自動化施工技術の開発と運用とに大きな期待がもたれているとのこと。子どもの頃に思い描いていた未来の建設現場の実現がもうすぐそこに迫っていることを実感するとともに、すでに AI 無しには社会が立ちゆかない現実が見えてくる。

我々は AI の無い時代に戻ることはできない。先述の授業で ChatGPT を知る学生が 1 割ほどしかいなかったことには愕然とした。彼らが教えることになる生徒たちは更に AI と親密になるはずである。それを教える側こそが率先して AI を利用し、その特性を理解し、慣れ親しんで自身のリテラシーを高めていかなければならないだろう。SNS などで情報が偏り世界観を見誤る「エコーチェンバー現象」よろしく、嘘に踊らされ誤った意思決定や行動選択をさせることのないように。

逸話と世評で綴る女子教育史(106)

— 昭和時代のはじまり ^{ひろひと}裕仁天皇の登場と私の思い —

^{かんべ やすみつ}

神辺 靖光(ニューズレター同人)

1926(大正15)年12月25日、大正天皇が48歳で崩御された。直ちに昭和と改元されたが、7日間でその年は終り、昭和2年になった。昭和の時代は実質、昭和2年(1927)年から始まったと言ってよい。

大正天皇の御大葬は昭和2年2月7日、政府、陸海軍あげて盛大にとり行われ、翌8日、東浅川(現高尾)の多摩御陵に^{まいそう}埋葬されて終った。空前絶後の大葬儀であったが、明治天皇の時のように宮城前に東京市民が集って^{どうこく}慟哭する光景は見られなかった。

これに対し、新帝、^{ひろひと}裕仁天皇に対する期待の声は高かった。周知のように“昭和天皇”はなくなられてから元号をつけたものでご存命中、われわれ国民は“天皇陛下”と呼んでいた。ニックネームはいろいろあったが駄洒落は止めておこう。本稿では裕仁天皇とする。

裕仁天皇は明治34(1902)年4月29日、東京青山の東京御所で生まれた。明治41年4月、学習院初等科入学、大正3年3月卒業、その間、乃木希典陸軍大将が学習院長だった関係で乃木式帝王教育を受けた。裕仁天皇は父大正天皇のことは語らないが祖父・明治天皇を慕う風があった。

学習院初等科卒業後、裕仁天皇は帝王学修行のために設けられた東宮御学問所で学ぶことになった。ご学問所総裁は日露戦争時の連合艦隊司令長官・東郷平八郎。東京帝国大学や学習院の教授たちが御用掛(教授)を勤めた。明治45年、明治天皇が崩御され、大正天皇が即位されると裕仁親王が皇太子になった。

大正10年3月、裕仁皇太子は訪欧の旅に出発した。この企ては時の首相・^{はらけい}原敬によってなされ、^{さいおんじきんもち}元老西園寺公望の後援で実現したが、右翼的な政党や皇

族内の保守派の反対を押し切って断行したのである。3月3日、横浜港を御召艦^{おめしかん}香取^{かとり}で出発、インド洋を渡り、スエズ運河を通して地中海経由ロンドンに着いた。イギリスでは国王晩餐^{ばんさん}会やロンドン市長歓迎会に出席、大英博物館やロンドン塔を見学した。5月30日フランスに入りミラン大統領を訪問、エッフェル塔やルーブル美術館を見学した。6月10日ベルギー、15日オランダ訪問、20日にはフランスに戻り、7月11日、イタリアに入って国王エマヌエル三世と会見。こうして五ヶ国歴訪の旅を終え9月3日、横浜に無事到着した。この外遊が裕仁皇太子にいかの影響を与えたか、後年の裕仁天皇回顧録からうかがえる。

帰国後の大正10年11月、大正天皇の病状悪化のため裕仁皇太子は摂政^{せつしょう}になった。大正13年1月、久邇宮^{くのみや}良子女王と結婚、大正15年12月24日、大正天皇が崩御されると昭和と改元、裕仁皇太子が新天皇になった。

昭和元年は8日間しかないから昭和の時代は実質昭和2(1927)年からはじまる。

話はいきなり私事^{しじ}になるが、私(神辺)は昭和4(1929)年2月、東京市本所林町(現墨田区)で生まれました。5歳まで本所の陋屋^{ろうおく}で育ったが、父が小医院を開くため、北多摩郡立川町に移転したので、そこに移住し、昭和30年、結婚するまで立川で暮らした。立川には陸軍近衛飛行連隊が常駐し、航空機に関する研究所や諸機関^{いしゅう}が蝟集していたので、時々、裕仁天皇の行幸があった。また昭和になって急成長したラジオやニュース映画によって裕仁天皇の行動は逐一報道されるようになった。友人や家族たちと天皇について印象を語り合うのも自然の流れ、よって以下、裕仁天皇の印象を幼年→少年→青年期のわたしの記憶に従って記したい。

私が4歳の頃^{としご}だった。年子の妹が生まれたので私は昼間は2、3軒離れた母方の祖母に預けられていた。近くに中和小学校という大きな学校があり、今でいう体育館で可愛いお嬢^{ちくおんき}さんたちがダンスをしていた。蓄音機から流れ出る歌は次のようである。

“昭和、昭和、昭和の子どもよ僕たちは姿もリリリ、心もリリリ、山、山、山なら富士の山 行こうよ、行こう、足並み揃え タラララ、ラララ、タラララー（二番以下略）”
明るく楽しい歌で、何度も聞くうちにすっかり覚えてしまった。また踊るお嬢さんたちがみな美しく可愛らしく、私は買って貰った棒水飴をしゃぶりながらある日祖母に“昭和ってなあに”と聞いたら“今度、天皇様が替わったから昭和と言うのじゃ、世の中、ちっとはよくなるだろう”と言ったのを^{せんめい}闡明に覚えている。昼間は穏やかなこの町も日暮ともなれば立ちん棒と称する日雇い労働者が酔っ払ってわめき散らす光景を見ていたから新しい天皇様になるとよいことがあるのかなと子ども心に思った。祖母は当時の不況を思って言ったのだろう。

私が裕仁天皇を直接見たのは小学5年生の時であった。先帝大正天皇の御陵が北浅川（現多摩御陵）にあったので、春秋各一回、御陵に参拝されるのである。途中、^{おめし}御召列車が中央線立川駅を通過する。この時、立川町に駐留する陸軍近衛飛行連隊は連隊長以下幹部将校と一個中隊ばかりの兵士が参列する。また立川町長、町会議長以下町の幹部もモーニング姿や羽織袴姿で参列する。警察官は周辺を警戒し、なんともものものしい。さらに強制ではなかったらしいが立川にある中学校、高等女学校、小学校上級生が参列した。私が立川尋常高等小学校的の5年生になった春のある日、“天皇陛下のお見送り”と言われて喜んで出かけた。プラットフォームは飛行連隊、立川町幹部で一ぱいだったから、中学生、小学生、女学生たちは貨物車専用の置場に並んだ。お召列車が通過するまで、二・三十分あったからふざけ合ったりしたが、お召列車通過の五分前、先導者が一台通過する。すると^{りょうりょう}寥々たるラッパの音が響きわたる。その時、^{のぼ}東方上り方面から御召列車が現れ、^{もんしやう}菊の御紋章がついた車両の中央、大きく開いた窓に挙手の礼をした裕仁天皇の姿があった。先導車のようなスピードでなく、寥々たるラッパに合わせた速さのため顔や姿がはっきり見えた。最敬礼を命じられたが、この瞬間のため授業を休んできたのではないか、30分も待たされたのではないか、児童生徒一同、^{うわめ}上目使いに天皇を^{ぎやうし}凝視した。天皇のお顔は^{ひやうかん}剽悍な軍人顔でなく^{なご}和やかな作家のようであった。町で出会う学校の先生のようにもあり、この頃、町

にふえだした東京商大の学生のように^{めがね}眼鏡ごしのお顔がやさしかった。私は裕仁天皇が好きになった。あの^{だいげんすい}大元帥らしからぬ知的でやさしそうな裕仁おじさんのような^{ふうさい}風采が大好きになった。私が少年時代、天皇に対して抱いたこの想いは昭和の戦争時代になっても変ることなく、ニュース映画でみる苦悩に満ちた天皇の姿はみるに忍びなかった。敗戦の決断は裕仁天皇の大英断である。多くの国民が感謝した。敗戦後、占領軍総司令官マッカーサー元帥との駆け引きも敗戦帝王としては上出来で^{やつ}裏切った姿が目には浮かぶ。

終戦翌年の昭和21年2月から裕仁天皇は自ら思い立って全国各地を巡るご巡幸をはじめた。前年、宮城前広場で起きた米よこせ暴動や天皇打倒集会をみて起死回生を図られたか。いやもっと純粹な国民の生活を案じられてのことと思うが全国各地の^{あんぎゃ}天皇行脚を企てた。まず京浜地区からはじまり群馬、埼玉、千葉県への2、3日の日程であったが予想外の反響で老年・壮年の男女が歓喜をかくせず大歓迎した。はじめ^{ざしんあんき}疑心暗鬼で見守っていた宮中関係者や政府もこれを見て大いに発憤した。かくして裕仁天皇の全国御巡幸は日本全国に及んだが、朝鮮戦争が勃発し、経済成長による日本の復興がはじまると天皇ご巡幸も終わった。

昭和21(1946)年11月3日、新しい日本国憲法が公布された。政府(吉田茂首相)は宮城前広場に特設祝賀会場を設けて裕仁天皇の出席を仰ぎ、盛大な新憲法公布祝賀大会を開いた。新憲法の定める所により裕仁天皇は“日本国民の^{もとづ}総意に基く”“^{しやうちゆう}国民統合の象徴”になったが裕仁天皇を国民統合の象徴とするアンケートは行われなかった。そこは日本式で祝賀会に集った大衆の喜びの表情で“国民統合”としたのかも知れないし、共産党を主体とする一部過激学生や青年の“天皇をギロチンにかけろ”の暴言暴行が反作用したのかもしれない。こうして理論上納得できない象徴天皇制がその後40年も続いたのである。

天皇ご巡幸はなくなったが、その後、東京オリンピックも貴賓席に姿を現わし選手たちの礼を受けた。経済が回復し立派な新宮殿が建てられると参集した国民の祝福を受けられた。やがて訪米を考えられ、マッカーサー元帥をはじめ要路の

米国人の寛大な占領に礼を述べられた。被占領国の帝王として全く余計な忖度^{そんたく}をしたものである。裕仁天皇は晩節を汚したと言わねばならない。

私見によれば、裕仁天皇は新憲法公布後、数年で退位すべきであった。1959（昭和34）年4月の明仁皇太子の御成婚がチャンスであった。その年か翌年、^{じょうい}譲位されて上皇になるべきであった。終戦には大英断で国民を救われたが、開戦には軍閥に同意したのだからその罪は消えない。宮城を新天皇に譲渡して引退すべきであった。伊勢の皇太神宮の特別^{ぐわい}宮司になってご先祖天照大神をお守りするのよよし、日本の象^{しょう}徴^{ちょう}、富士山麓^{ろく}に仮宮殿を建てて新年お歌会を開くにもよし。お好きの植物採集、ご研究、各地を回られて土地の人々と仲良くされれば象徴天皇のその後の人生を豊かにされただろうと思うと惜まれる。

1970年代の大東文化大学附属盈進幼稚園・小学校・中学校・高等学校

— かつて存在した大東文化学園の設置学校 —

たにもと おねお
谷本 宗生(大東文化大学)

大東文化大学・大東文化学園の年表をみると、1977(昭和52)年7月、大東文化学園の設置学校である、大東文化大学附属盈進幼稚園・小学校・中学校・高等学校が学校法人大東文化学園から分離し、学校法人盈進学園に移行されている。そこで、かつて存在した大東文化学園の設置学校である、1970年代の大東文化大学附属盈進幼稚園・小学校・中学校・高等学校について、本稿では、少しばかり紹介してみたいと思う。

*** **

1972(昭和47)年4月、大東文化大学附属盈進幼稚園・同小学校・同中学校・同高等学校が設置された。これらの学校は、もともと学校法人盈進学園(創立者:教育者・丸山鋭雄 生1887~没1974年)が大正自由教育の考えに基づき、1925(大正14)年に盈進初等学校を、31(昭和6)年に盈進幼稚園を、46(昭和21)年に盈進中学校を、48(昭和23)年には盈進高等学校を、順次設置して特色ある教育を目指していたという。丸山と親しくしていた徳富蘇峰(生1863~没1957年)が、同校を訪れて「原泉混混、不舍昼夜、盈科而後進」と称したことが盈進学園の由縁とされる。丸山が、後年自身の半生や教育理念を綴っている『私のあゆみ』(1965年、盈進社)をみると、「一人一国の孤独を許さない。地上の人類は、洋の東西、時の古今を論ぜず、民族、宗教、政治、経済を超えて、各国の存在を認め、有機的な友情のもとに、視野を広くし、共存共栄、人類の福祉のために貢献しなければならない。盈進の教育、原泉混々として昼夜をすてず、科に盈ちて後四海に到る。この高き理念のもとに、永遠に滅びない生命の教育の持続発展を祈るのみ」と、端的に明記されている。

ところが、戦後の1965(昭和40)年に入ると、創立者の丸山家の学園経営の逼迫から関係施設・設備等の充実もままならず、それにもない、受け入れ生徒数も減少する傾向であったために、盈進学園から協力依頼の要請を受けて、大東文化学園が吸収合併することになったのである。

「盈進の現状と展望」『大東文化大学五十年史』(1973年)を執筆している、大東文化大学附属盈進幼稚園・小学校・中学校・高等学校の校長を務めた酒井田景三は、秋田師範学校を卒業して、郷里・秋田県内の教育に尽力していた。戦後、レッド・パージにより教育界を一時離れたが、心機一転、東京に上京して、丸山が創立した盈進学園の運営に管理指導者として、長年にわたり手腕を発揮していくことになる。とくに偏差値を重視するあまり、本来の個性的な学習を無視した高等学校入試には批判的であった酒井田は、自身が所属する盈進高等学校では、大東文化学園による安定的な関係性を前提とし、「詰め込み第一主義では、生徒の一人ひとりの可能性を引き出すことができません。得意科目で個性を伸ばせるならばと、中学校で習う9教科のうちから好きな3教科を選んで受験できるようにしました。絵をかき、ピアノを弾き、また剣道、ランニングで受験する生徒もいました…。しかもペーパーテストと実技は、個性尊重の立場から平等に扱っている」(「東京の秋田人 酒井田景三さん」『あきた』257巻、1983年10月)と明言した。

実際、大東文化大学附属盈進高等学校では、基礎・個性・発展の三段階学習を実践したのであった。なかでも、個性学習では、学年・学級の枠を取り払った無学年制で行うもので、3教科を細分化して、多くの講座、1972(昭和47)年度には50講座を設けている。生徒の好きな学習・講座を自由に選択できる仕組みで、午後の授業全部を当てるとしたのであった。現場の中心人物であった酒井田によれば、附属の盈進で個性を尊重した教育をとおして、「すべての差別・選別につながる悪の根源とまでいわれるテスト主義教育を排除し、真の教育、人間教育への道を大きくひらくものだ」(『大東文化大学五十年史』)とし、「幼稚園の時から大東大をめざして」と強調していたのである。

大正時代の女子高等教育(61)

日本女子体育専門学校——二階堂体操塾の開塾

ながもと ゆうこ

長本 裕子(ニューズレター同人)

大正11年4月、二階堂トクヨは東京府代々木で二階堂体操塾を開いた。開塾当初は各種学校であったが、わずか4年で日本初の体育専門学校に昇格させた。現日本女子体育大学の前身である。異例のスピード昇格であった。それはトクヨと教職員、生徒・卒業生たちが一体となって協力した、努力の賜であった。

大正10～14年、高等女学校の生徒数が毎年約3万人増加し、14年には約30万1,000人となった。日露戦争後、国策として賢母となる女子の健康増進をはかるため体育が奨励されたが、体操の女子教員養成は遅れていた。藤村トヨが率いる東京女子体操音楽学校(現東京女子体育大学)が毎年60～80名、東京女子高等師範学校(現お茶の水女子大学)の臨時教員養成所が隔年ごとに約30名、日本体育会体操学校女子部(現日本体育大学)が5名から多い年には22名の卒業生を出していたが、それでもかなり不足していた。

トクヨは、大正10年5月から出版し始めた月刊個人雑誌『わがちから』で女子体育の必要を世間に訴えていた。トクヨは、当時女性教員として最高の職業である東京女子高等師範学校教授や東京女子大学講師を務めていたが、11年3月、それら一切の職を退き、自分が理想とする体育を普及するためには私立でなければできないと考え、学校を創立する決心をした。同年3月号の『わがちから』で「二階堂体操塾案内」を出した。その概要は、“入学試験なし。学力は高等女学校や女子師範学校卒業程度。20歳前後の女子。修業1年。中等教育の体操科教員養成を目的とする。無資格だが就職は保証する。”などであった。時代の要求からか、トクヨの名声を慕ってか22名の募集に対して約4倍もの応募があった。トクヨは『わがちから』第2巻2号(大正11年3月発行)に、「困ったものです」という題で、

私にもうすこし金がありますなら、家をもう一軒かりて、あと十五、六名位は収容が出来るんですけれど残念なことには金がありませんので、そうした事

が出来ませんから、人員以外の方はあきらめてください。(『二階堂学園六十年誌』より)

と苦衷を述べている。しかし、“培はば何れも名木となるべき双葉の苗木、どうしてむざむざと棄てる事が出来ませうぞ”(いずれも育てれば立派な体操教員となるだろうに、どうして切り捨てられようか)と悩んだ末、結局定員の倍の40数名の入学を許可した。

そうなると問題は収容する建物である。最初に借りたのは明治神宮裏入り口にある邸宅で、2棟の建物に40坪余の庭園つき、敷金なし、月70円の格安の家賃に下げてもらった。幸いにも隣家が空き家となったので、急ぎよ家



創立当初の二階堂体操塾・代々木山谷
(『二階堂学園六十年誌』)

賃40円、敷金120円で借り受け、最初に借りた家と新しく借りた家の間の空き地に2棟を新築した。建物はこれら4棟、家賃合計110円、建築費4,000円。4棟の畳数合わせて約120畳。表の20坪の空き地を運動場に、裏の4坪の空き地を物干し場とした。家賃や敷金などは二階堂家の貯蓄で負担し、建築費や設備費はトクヨが会長を務める全国婦人同志会の寄付金6,000円を使わせてもらった。しかし、とても足りず、開塾間際に月謝を3円から5円に値上げした。トクヨはこの間の理由を『わがちから』(第2巻3号)で、包み隠さず説明している。こういうざっばらんな点が慕われ、信頼されたのであろう。このようにお金がないにもかかわらず、体操器具は最上のものにした。運動場には大きな器械や立派な道具が設備された。しかし、収納庫も屋根もなく雨ざらしの状態であった。この苦境を察して、陸軍省は隣接する代々木練兵場の使用を第1期生が卒業するまでという条件で黙認してくれた。塾の固定収入は、月謝と食費だけであった。何の後ろ盾

もない、文字通り私財を投じての開塾であった。東京帝国大学哲学科を卒業したトクヨの末の弟二階堂真寿が国語を担当し、その友人の宮本鉄之助が英語を担当した。トクヨの母と妹が二人の女性を使って寮の炊事を担当した。家族ぐるみで経営する私塾的なスタートであった。

明治30年代後半期の学校体育事情を述べよう。その頃は普通体操、スウェーデン式体操、兵式体操、遊戯、スポーツなどが入り混じって混乱状態であった。36年2月、文部省初の体育研究留学生井口阿くりが^{いのくち}米国から帰国すると、女子高等師範学校国語体操専修科（修業2年）教授に就任した。井口は、米国で学んだスウェーデン式体操は体力養成運動として万能であると、講演や講習会で積極的に普及していった。当時は、普通体操が体操伝習所以来25年間にわたり学校体育を統一してきたが、形骸化していた。スウェーデン体操は、19世紀初めにスウェーデン人ペール・ヘンリック・リングによって創案され、教育体操、医療体操、兵式体操、芸術体操の4つを柱として構想されていた。リング亡き後スウェーデン王立中央体操学校が引き継ぎ完成させた。欧米各国で導入されたが、次第に形式的、ドリル的な体操に変容し、律動性に乏しく、面白味に欠けたものになっていった。

36年5月、女子高等師範学校では、井口の帰国に合わせて新設した国語体操専修科に21名が入学した。以後8年間、44年まで4期にわたって88人の卒業生を送り出した。それまでの普通体操に比べると、^{ろくぼく}肋木を使っての懸垂などに代表されるスウェーデン式体操は体力を必要とした。37年10月、文部省は混乱している体育教育を統一するために、沢柳政太郎を委員長とし、井口、川瀬元九郎、坪井玄道ら8名からなる体操遊戯取調委員会を設け、現状分析と対策を立てさせた。翌年11月、スウェーデン式体操を主体として普通体操を改良して用いること、事実上スウェーデン式体操が我が国の体育教育に適していると決定した。日露戦争開戦にあたり政府がより厳しい体力養成運動を求めたことも影響したであろう。

しかし、38年11月から文部省の留学生として3年余米欧留学していた永井道明が42年2月に帰国すると、状況は変わっていく。日露戦争開戦時、陸海軍が即戦力となるよう学校体育において実際的な教練を要求した。軍部が学校教育に介入してきた。そこでその推進者として選ばれたのが永井であった。帰国後永井は東京高等師範学校と東京女子高等師範学校(41年、女子高等師範学校から校名変更)の教授となった。本場スウェーデン王立中央体操学校で1年間学んだ永井に対し、アメリカ経由の変容したスウェーデン式体操を学んで教授する井口の立場が次第に弱くなっていく。44年7月、井口は東京女子高等師範学校を退職し、二階堂トクヨにバトンタッチした。

参考文献

『二階堂学園六十年誌』

二階堂清寿・戸倉ハル・二階堂真寿共著『二階堂トクヨ伝』

『日本体育大学八十年史』

新制高等学校の補習科・専攻科の歴史的研究に関する覚書(30):

『鳥取県公報』にみる鳥取県立高等学校の専攻科(4)

よしの たけひろ

吉野 剛弘(埼玉学園大学)

今号も前号に引き続き、『鳥取県公報』(以下、『公報』)に掲載された専攻科の生徒募集に関する告示を検討する。今号では、1993(平成5)年度の入学者選抜実施要項を中心に検討する。

1993(平成5)年度の実施要項から横書きに体裁が変更された。その内容は以下の通りである。

平成5年度鳥取県立高等学校専攻科入学者選抜実施要項

1 募集高等学校及び募集生徒数

高等学校名	所在地	募集 生徒数
鳥取東高等学校	鳥取市立川町五丁目210番地	約100人
倉吉東高等学校	倉吉市堺町二丁目801番地	約100人
米子東高等学校	米子市勝田町1番地	約100人

2 出願資格を有する者

- (1) 高等学校又はこれに準ずる学校を卒業した者
- (2) 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第69条各号の一に該当する者

3 出願方法

(1) 出願手続

- ア 入学志願者は、次に掲げる書類を志望する高等学校の校長に提出しなけ

ればならない。

(ア) 入学志願書(各募集高等学校から交付されたもの)に所定の入学選抜手数料に相当する額の鳥取県収入証紙(消印をしないこと。)をはり付けたもの

(イ) 出身高等学校の校長の発行する調査書(大学受験用の調査書と同様とする。)又は高等学校の卒業資格及び学力を認定するに足る書類

(ウ) 出願前3箇月以内に撮影した脱帽、上半身、名刺判の写真1枚(裏面に出身学校名、氏名及び生年月日を記入すること。)

イ 高等学校の校長は、入学志願書等を受理したときは、入学志願者に受検証を交付するものとする。

(2) 出願期間

平成5年4月2日(金)から同月6日(火)まで(日曜日は除く。)

ただし、郵送による場合は、簡易書留とし、同月3日(土)までの消印のあるものに限る。

(3) 受付時間

9時から17時まで(土曜日は、9時から12時まで)

(4) 受付場所

各募集高等学校

4 入学者選抜の方法

入学者の選抜は、入学志願者の提出した書類の審査及び入学者選抜学力検査の結果を総合して行う。

5 学力検査の日時等

(1) 日時 平成5年4月8日(木)9時から(ただし、8時30分までに集合すること)

(2) 場所 各募集高等学校

(3) 学力検査の科目 国語Ⅰ、国語Ⅱ、数学Ⅰ、数学Ⅱ、英語Ⅰ及び英語Ⅱ

6 合格者の発表

平成5年4月 12 日(月)12 時に各募集高等学校に合格者の氏名を掲示する。

7 注意事項

(1) 提出された書類及び入学選抜手数料は、返還しない。

(2) この要項に関し不明な点は、各志望高等学校へ問い合わせること。

8 参考事項

(1) 専攻科の授業は、精深な程度において特別な事項を教授し、その研究を指導することを目的として、次の教科を履修させる。

国語、数学、外国語(英語)、理科、社会及び保健体育

(2) 専攻科の修業年限は1年とし、学期は第1学期(4月から8月まで)及び第2学期(9月から翌年3月まで)の2期とする。

(3) 専攻科の生徒の学習評価。単位認定、修了等については、高等学校の全日制課程に準ずるものとする。

ここからは、変更点を見ていくことにする。

1995(平成7)年度から合格発表の方法が変わり、氏名ではなく受検番号を掲示することになった。この変更は、1995(平成7)年3月17日に募集要項とは別の形で告示された。

1997(平成9)年度からは、学習指導要領の改訂に伴い学力検査の科目が変更された。新たなものは、「国語Ⅰ、国語Ⅱ、数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B、英語Ⅰ及び英語Ⅱ」だが、高等学校2年までの内容という点では変わりはない。

同様の理由で、専攻科で教授する教科も、社会が地理歴史、公民と変更された。

2000(平成12)年度からは、募集生徒数が各校80人と変更された。

2001(平成13)年度からは、7として以下に示す「入学者選抜の結果の開示」が加わり、「注意事項」と「参考事項」の番号は順次繰り下げられた。

7 入学者選抜の結果の開示

入学者選抜の結果については、鳥取県個人情報保護条例(平成11年条例第3号)第19条第1項の規定により、口頭で開示を請求することができる。なお、この場合において、電話、はがき等による請求では開示できないので、学生証等写真により本人が確認できるものを持参の上、受検者本人が直接各募集高等学校へ請求すること。

(1) 開示請求ができる期間

平成13年4月11日(水)から1月間

(2) 開示する場所

各募集高等学校

2003(平成15)年度から鳥取東と米子東の募集生徒数が60人と変更された。

2004(平成16)年度と2005(平成17)年度の募集要項は広報への掲載が確認できない。

2006(平成18)年度から募集生徒数が変わり、鳥取東と米子東が50人、倉吉東が70人と変更された。

2007(平成19)年度からは、学習指導要領の改訂にともない学力検査の科目が変更された。新たなものは、「国語(国語総合、現代文及び古典)、数学(数

学Ⅰ・数学 A 及び数学Ⅱ・数学 B)、英語(英語Ⅰ及び英語Ⅱ)」である。

2009(平成 21)年度からは、鳥取東高等学校の専攻科の廃止にともない、倉吉東と米子東のみの募集となり、最終年度の 2012(平成 24)年度を迎えることになる。

次号からは、『鳥取県公報』に掲載された他の規則類を検討する。

(付記)本研究は科学研究費補助金(20K02435)の助成を受けたものである。

子どもたちと考える校則③

－「校則の見直し」はいつから？－

はった ともかず
八田 友和(クラーク記念国際高等学校)

1. はじめに

2019年11月に映画『ブラック校則』が公開された。この映画では、生まれ持った栗色の髪を黒く染めるように強要された女子生徒を救い、ブラック校則と大人たちに立ち向かう2人の男子生徒の姿が描かれている。¹⁾ この映画は公開前から各方面で大きな反響を呼び「ブラック校則」という言葉を世間に浸透させるきっかけにもなった。その後、全国的に「校則の見直し」が行われるようになり、2021年には文部科学省より「校則の見直し等に関する取組事例(事務連絡)」が発出され、2022年には『生徒指導提要(改訂版)』が刊行されることになる。では、我が国における全国的な「校則の見直し」は、ここ最近の話なのだろうか。過去にも同様の問題提起や「校則の見直し」に向けた動きはなかったのだろうか。仮に、過去にも同様の問題提起や全国的な「校則の見直し」があったとすれば、その当時の考えや推移を振り返ることが、現在の「校則の見直し」を考える際の参考になるのではないだろうか。

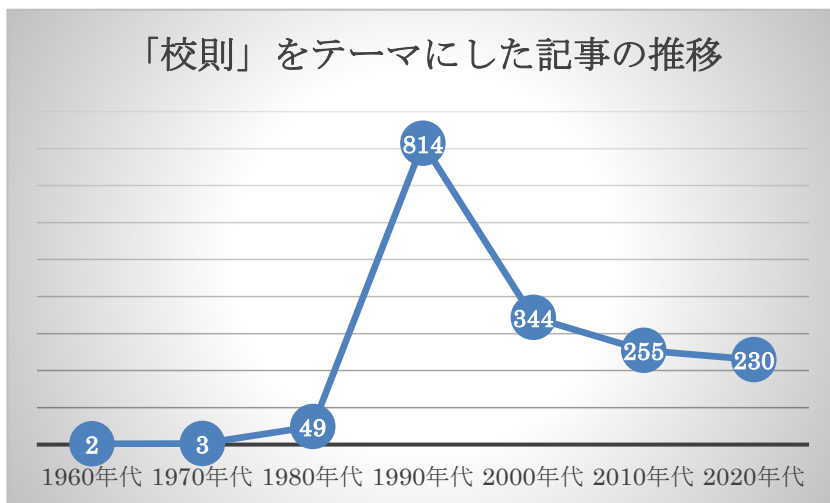
以上を踏まえて本稿では、商用データベース(本研究では、毎日新聞社が提供するデータベース“毎索”を取り上げる)を活用し、過去の新聞記事から、「校則」や「校則の見直し」に関する記事を抽出し、その内容や推移について整理する。

2. 「校則」を取り上げた新聞記事

毎索における記事検索(キーワード検索)で「校則」と検索したところ1696件ヒットした。²⁾ なお、確認できた最も古い記事は、1963年10月12日東京朝刊15頁に掲載された「教育 高校・高専:交通事故に厳しい校則—山梨の谷村高で作る」であった(下線筆者加筆)。その他にも、「丸刈り強制中学校校則は「著しく不合理といえぬ」と熊本地裁判決(1985年11月13日東京夕刊1頁)」をは

はじめとした校則と裁判について取り上げたもの、「堀越学園高で校則違反の生徒処分」をはじめとした校則と処分について取り上げたもの、などが確認できた（下線筆者加筆）。

（表1）「校則」をテーマにした記事の推移（毎索の検索結果をもとに筆者作成）



なお「校則」に関係する記事³⁾は、60年代で2件、70年代で3件であった記事数が、80年代は49件、1990年代には814件と増加していく（表1）。特に80年代後半から90年代にかけて、「校則」を取り上げた記事が大幅に増加しているため、この期間の記事を取り上げ、内容の整理を行う。

3. 1980年代の新聞記事から校則を考える

ここでは、「校則」を扱った新聞記事が増え始める80年代後半の新聞記事のうち、「校則の見直し」をテーマにした記事をいくつか取り上げ、その内容を整理する。

まず、「文部省が細かすぎたり、管理主義に陥りすぎの中高校則見直し指導（1988年4月24日東京朝刊1頁）」を取り上げる。

校則をめぐるトラブルが相次いでいるが、文部省は内容が細かすぎたり管理主義に陥りすぎている中、高校の校則の見直しを求める方針を決め、二十五日と五月十九日の二回にわたって、各都道府県教委を指導する。内容は 1) 校則の簡素化をはかる 2) 校則づくりに生徒も参加することにより、自主的に守れるようにし、学校の活性化をはかる—などである。人間形成をはかるという学校教育の目標達成のためには共通ルールが必要で、校則や生徒心得は学校や地域の実態に応じて適切に定められるべきだ、としてきた。ところが、特に中学校では校則にあわない髪形、服装をしたり、態度をとると、卒業アルバムからはずしたり、登校しても授業を受けさせないなどのトラブルが各地で起きている。また、女生徒が規定以上の長さのスカートをはいていないかどうかを調べるため、定規でスカートの長さを測ったり、カバンの中身をチェックする持ち物調べなどを日常的に行う学校も出てきた。
(下線筆者加筆)

この記事から、①「校則の見直し」に関する国の指針は過去にも出されていたこと、②下線部をはじめ、現在行われている「校則の見直し」と同じような論点が複数提示されていること、などが読み取れる。

次に、「実態を踏まえた校則づくりを 文部省が指導主事に指示(1988年5月19日東京夕刊2頁)」の記事を取り上げる。

校則をめぐるのは、違反した生徒を卒業アルバムからはずしたり、授業を受けさせないなどのトラブルが各地で起き、文部省はすでに、内容が細かすぎたり、管理主義に陥ったりしている校則の見直しを指示しているが、この日、都道府県教委の直接の担当者である指導主事を集め、改めて「校則の内容には絶対守るべきもの、努力目標というべきもの、児童生徒の自主性に任せてよいもの、がミックスされている」と指摘、学校・地域の実情や保護者の考え方、児童生徒の実態を踏まえて校則作りを進めるよう求めた。
(下線筆者加筆)

先ほどの記事は、「校則の見直し」について文部省が各都道府県教育委員会を指導する、というものであった。それを受け、5月19日の記事では、都道府県教育委員会の担当者（指導主事）を集め、「校則の見直し」や「諸事情を踏まえての校則作り」を指導していることが報じられている。特に下線部は、現在も指摘されている部分といえる。今後の連載では、この「校則の見直し」に向けた動きが、その後どのように展開され、どのような流れを辿るのか、についても考えていきたい。

4. さいごに

この連載では末尾に QR コードを添付しています。拙稿に対するご意見・ご感想などございましたら、ぜひ QR コードからお寄せいただけますと幸いです。今後の研究や執筆活動の参考にさせていただきます。なお、本稿における内容や意見は、筆者個人に属し、筆者が所属するいかなる組織・団体の公式見解を示すものではありません。



ご意見・ご感想などは、上記の QR コードからお寄せください。

【注】

1) 松竹「ブラック校則」（2023年9月23日確認）を参照。

<https://www.shochiku.co.jp/cinema/lineup/bla-kou/>

2) 毎索では、1872年の創刊号から現在までの記事が検索可能である。よって、期間は全期間（1872年～2023年）を設定し、検索を行った。なお検索結果数は、2023年9月23日時点である。

3) 2020年代は230件となっているが、これは2020年～2023年9月までの件数である。

【参考文献】

- ・大津尚志2021『校則を考えるー歴史・現状・国際比較ー』晃洋書房
- ・文部科学省2022『生徒指導提要（改訂版）』
- ・「ブラック校則をなくそう!」プロジェクト（最終確認2023年9月23日）<http://black-kousoku.org/>
- ・文部科学省「校則の見直し等に関する取組事例」（最終確認2023年9月23日）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1414737_00004.htm
- ・株式会社松竹「映画：ブラック校則」（最終確認2023年9月23日）
<https://www.shochiku.co.jp/cinema/lineup/bla-kou/>

旧制灘中学の教育目標と生徒の活動(3)

とみおか まさる
富岡 勝(近畿大学)

はじめに

前々号より、旧制灘中学校の教育目標や生徒の活動について調べ・考えたことを、このニューズレターで報告している。前号は、灘中学校の教育目標をめぐる複数の要素の一つとして、灘中学校の顧問をつとめた嘉納治五郎を取り上げ、嘉納治五郎が、「灘中の生徒は今から柔道を練習して、精力善用共存共栄の精神を養ひ立派な国民とならしめたい」という教育目標を生徒たちに講演したことを紹介した。

本号では、嘉納治五郎が灘中学校における「精力善用」「自他共栄」の具体的な手立てとして、「攻防式体操」を実施する意義を生徒たちに語った1929年4月29日の講演(「嘉納顧問の講話」『灘』第3号、1929年7月24日発行)を紹介する。

日本一の優良中学を目指すことを宣言

嘉納治五郎は、この講演の冒頭で「望むらくは日本中の最も良い学校たらしめたい」と宣言し、「体を良くする事」と「心がけを良くする事」の両面から日本一優良な中学校を目指すことを述べている。

私は創立以来相談相手となり、そして学校の方針をいろいろ考へて居る次第で、此の学校が良くなる事は、心から希望して居る。

是非良くしたいと思ふ、又創立以来着々良い方へ向いて来て喜ばしい次第である。

此の学校の特色は従来所々の学校に鑑み、是迄の学校の成績の上らぬ理由、成績の良くなつた理由等を参考として、望むらくは日本中の最も良い学校たらしめたい。

良い学校にするには、いろいろの方面から力を尽さねばならぬ。先づ
一、体を良くする事
二、心がけを良くする事
此の二つが殊に年の行かぬ者にとつて何よりも大切である。

心身を疲れすぎない程度で使う

続いて、「体を良くする事」について、治五郎を無駄に体を疲れさせないこと、つまり「心身を疲れすぎない程度で使う」ことが重要であると強調し、欠陥のない体育法として、柔道をもとに自ら考案し、灘中学で実践している「攻防式国民体操」の特徴を述べている。やや長くなるか、治五郎はなかなか興味深い話し方をすると感じたので紹介しておきたい。

体を良くする方から言へば、先づ衛生を守らねばならぬ。細かく言ふと六ヶ敷いが解り易く言へば、病気になる様、無駄に体を疲らせぬが大切である。

(略)

心身が疲れ過ぎる事は悪い事であるが、と言つて怠ける事は尚悪い。心身は疲れすぎない程度で使ふが良い。どれ位にすれば心身が疲れ過ぎるのかは、子供には分からない。

先生や父兄など年をとつた人にきいて無理せぬ様、遊び過ぎぬ様にすれば、自然体も丈夫になる。

今日迄学校で教科となつて頭を働かせるのにもそれぞれ仕組みが立つてゐる。体を働かせるのにもそれぞれ仕組が立つてゐる。

学校の先生から教はる事は一般に最も善い事であるが、その中でも此の学校の特色として他ではあまりやらぬもの、即ち私が考案した攻防式国民体操、これは自分から講釈すると自慢になるが然し他の人も充分に証明を与へてくれた。之は欠陥なき体育法として文部省の吉田博士も、文部省の体育技師の大谷といふ人も体操の立場から見て、世界の体操中の最も良

い点を有し、その上それらの中に無い多くの長所を持つてみると証明してゐる。

此の学校での此の体操を他に率先して行つてゐる。此の体操が最も価値ある体操である事は、諸処に実行者が出来、立派な成績を挙げつつある事でも分かる。

(略)

当校でも二年生は一ケ年やつてゐる。文部省の課程の関係で時間を充分かけることは出来ないがその効果は充分信じてゐる。

此の体操が何故良いかと言ふと、柔道の根本原則たる「人間の力を最も効力ある様に働かせる」からである。

従来体操は面白くなく、実用にならぬ

「攻防式国民体操」を最良の体育であると述べる治五郎は、従来体育について次のように述べ、「面白くなく、実用にならぬ」と批判している。

従来体育を論ずる者は、其の意味は充分明にし、強く健にとは唱へたが、人間生活に役立つ体にするといふ事については多く唱へぬ。が人間として生まれた以上健かに強く且役に立つ体でなければならぬ。

是迄の体育を見るに役に立つ事が少い。

水泳やランニングは役に立つ、が多くの運動は役に立つといふ上に効果が非常に少い。

攻防式体操は何よりも大切な、人に負けない、人から攻められても之を避ける事が出来、不都合な奴を捉へる攻防といふ人間として最も大切な効能がある。

(略)

一国に陸海軍が必要である如く、人間も人から襲はれた時に己を守る方法を知る必要がある。己を防衛するといふ事は普通教育には無くてはならぬ。之が今迄に無かつたのは一大欠陥である。

攻防式体操は体をよくし、攻防する効を有する。人から突かれた様が、打たれ様が自由自在に之を外し、自由に人を捕へる事が出来る。此の力を与えるから人間に一の価値を与える事になる。

(略)

そして多くの体操よりも全体的育成に価値がある。体操は面白くなく、実用にならぬ。

攻防式体操は全身をよく発達させ且種々の利益を併せ得られ、実用と興味とがある故已に識者は進で各自の学校に実施しつつある。

攻防式国民体操とは

ここまで嘉納治五郎が自信満々で語る「攻防式国民体操」とはどのようなものなのだろうか。

国立国会図書館デジタルコレクションで、「攻防式国民体操」について詳しく説明した『講道館師範嘉納治五郎講述 攻防式国民体育』（講道館文化会編集発行、1928年7月25日発行）を見ることができた。上記の灘中学における演説と共通部分も多いが、7頁に以下のような「理想的の体育」についての記述があるのに気がついた。

理想的の体育

- 一、筋肉としても、内蔵としても、身体を円満均齊に発達せしめて、成るべく危険の伴はないこと
- 二、運動は一々意味を有し、随つて熟練がこれに伴ひ、且つその熟練が人生に用をなすものであること
- 三、単独でも団体にても出来、老若男女の区別なく実行し得らるゝこと

- 四、広い場所を要せず、成るべく簡単なる設備で行ひ得られ、服装の如きも平素の儘で行ひ得らること
- 五、時間を定めて行ふも、随時零碎の時間を利用して行ふも、人々の境遇上及び便宜上自由になし得ること（7頁）

つまり、1)身体をバランス良く発達させ、危険が少ない、2)役立つ運動である、3)人数を問わず、また老若男女の区別なく実行できる、4)特別な施設がなくても実行できる、5)実施する時間は自由である、といった特長をもつのが「理想的の体育」であり、「攻防式国民体操」はこれに該当すると治五郎は言うのである。

『講道館師範嘉納治五郎講述 攻防式国民体育』22頁には、基本練習の図解写真が付いている。その基本練習（一）の図は以下の通りである。



共通の心がけとしての「精力善用」「自他共栄」

ここで、冒頭の灘中学での演説に戻る。嘉納は、体育・知育・徳育に共通する灘中学の教育方針として、「精力善用」と「自他共栄」を次のように説明する。

次に心掛けの良いといふことは如何したら出来るか。極く解り易くいふが、教といふことは昔から沢山ある。基督教、仏教等種々の形に於て教といふものはあるが、余り沢山あり、余り色々異つた形で教へられてゐるから、随つて非常に繁雑である。それが為専心になる事が出来ない。其れ故何れにも共通した一の心掛けを示して貰ふ事は一同に取つて頗る大切である。私は、その何れにも共通した一つの心掛けとして、自他共栄、精力善用といふ言葉を提出する。

精力善用とは人間の力を最も役に立つよう、効力あるように活かせる事、自他共栄とは、自他共に都合好くなると言ふ事である。

(略)

精神的肉体的に自己に力ある人間とならねばならぬ。是が此の学校で教育を受ける所以である。

されば学校で知徳備はつた人物とならねばならぬ。実社会に出るにも、高等の学校に行くにも精力を善用して各々が目指す事に成功するようにせねばならない。是れは子供から大人に至る総ゆる人々に一貫した心の用方である。

物を食ふにも過ぎるは無駄であつて、腸胃を無駄に活かせ、精力の善用どころか却つて悪用である。さればといつて、食ふべき物も、食はねば自身を養ふ事が出来ない。人間は寝てゐる間にも、心臓や肺臓は活動し、精力は減る。水を飯むも寝るも休息するにも、精力善用といふ事が必要である。

知識を磨くにも、毎日の数科目を準備し、学習し、復習し一方にのみ偏しては行けぬ。全体に力を分けて過不足なきやう。勉強の仕方でも精神をそ

れに集中して、他を顧みず、先生の言ふ事を聞くにも心をこめてその言葉を聞く。之が精力善用である。

家庭にあつてもよく勉め、過不及をなくするのが精力善用で、小遣でも効力あるように使ひ、物を言ふにも、下らない事を言つて、人の気を悪くしたり、自分を卑締めたりしない。さればとて言ふべき時には充分言はねばならぬ。何時言ひ何時言はぬか、といふに精力善用の原則から考へればよろしい。

精力善用、此の四字を忘れねば人々の仕事に誤は無い。

次は自他共栄であるが、自分さへよければ他人はどうでもよいとし、人さへよければ自分はどうでもよいといふのは実行は出来ない。己を捨てて人の為に尽せ、とは言葉を強めて言つたので自他共栄こそ人の道である。三人で事をする時二人は良くて、一人はどうでもよいといふのは誤つた考へである。三人五人百人、皆共々によくなる、全体として都合よくなるいふ様に心がける、それ故学校生活では利己的に陥らず、自己を押へるが必要だとて自分を全然無視するのは宜くない。国家の大事件の場合など一人を全く捨てるといふ様なことも、一応理ある様だが必ずしもさうでは無い。戦争で一人が命を棄てる時、人は精神と肉体の両面があるから、死ぬといふことは即ち肉体の方で、精神は大いに生きるから、即ち自他共栄といふ事になる。自他共に栄える事が道德の根底である。

以上述べた所によつて見るに、自他共栄は他の人と共同生活する上の原則であり、精力善用は自分を発展せしむる原則である。

つまり、「精力善用」とは、合理的な方法で「人間の力を最も役に立つよう、効力あるように活かせる事」であり、「自他共栄」は学校や社会で生活する上で幅広く通用する道德であると治五郎は述べている。

なお、上記の演説で「国家の大事件」のために戦争で一人が命を捨てることも、肉体は死んでも「精神は大いに生きるから、即ち自他共栄」と治五郎は述べ

ているが、この発言は国際オリンピック委員をつとめ、国際協調を重んじていたであろう治五郎にとって、どのように位置づけられていたのであろうか。今後、この点にも注意しながら治五郎について調べていきたい。

このように見ていくと、嘉納治五郎の教育観は、基本的には合理的で大正自由教育の雰囲気はまだ残っていた昭和初頭にあっても、新鮮味があったのではないと思われる。

次号では、眞田範衛校長に関する史料を紹介したい。

体験的文献紹介(55)

— 教育令、改正教育令と政界の転回 —

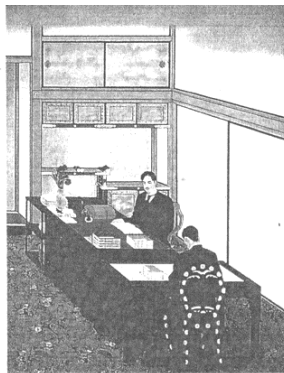
かんべ やすみつ

神辺 靖光 (ニューズレター同人)

明治9年、大久保利通内務卿の大々的かつ徹底的な府県統廃合によって学制の根幹である学区制が壊滅し、次いで田中不二麻呂文部大輔(次官)によって学制期の特設と言える官立英語学校、公立外国語学校が閉鎖された。大々的府県統廃合に替わる新三法(郡区町村編制法・府県会規則・地方税規則)は大久保の跡を継いだ内務卿・伊藤博文によってつくられた。この時期の伊藤は民意を十分に聴いて産業を興すという大久保の意志を継いだので、漸く興った民権運動に好意的であった。しかるに同じ頃、天皇直裁の思想が明治天皇と天皇を取り巻く儒者の間から起り始めていたのである。

ことは明治11年の天皇御巡幸からはじまった。この年、27歳になられた明治天皇は大久保が編成した新しい警官隊百数十人を引き連れて東山・北陸・東海道を2ヶ月余りにわたって巡幸された。途中、各地で節婦孝子を表彰したり、新設の小学校を見学したり、激励したりの民事視察と新天皇 PR を兼ねた大旅行であった。金沢で師範学校の授業を参観した時のことだが、生徒が電信の原理を講じるのも実験するのもすべて英語で行った。この時、参観中の天皇が、日本語で行うように命じたが生徒は日本語で説明できなかった。この事件がきっかけになって帰京後、天皇の侍講(教育係)元田永孚が天皇の意向として内務卿・伊藤博文、文部卿・寺島宗則に示したのが「教学大旨」である。そこでは知育よりも徳育(道德)の方が大切であること、徳育は「孔子の学、即ち儒学を主とせよ」と述べている。これは「学制」前文に当る「被仰出書」や明治初期の思想を主導した福沢諭吉の開化思想とは違って10年後の「教育勅語」に繋がる思想であるが、まず現下の教育令に大きな影響を与えた。

元田永孚は肥後熊本藩士・藩校時習館に学ぶ。明治4年に上京、大久保利通の推挙で明治天皇の侍講になった。この時の侍講は国学者・福羽美静、洋学



元田永孚（1818～1891） 元熊本藩士。明治4（1871）年に宮内省に出仕し、天皇の教育を担当、その質朴な性格を愛された。図は明治7年ごろ、赤坂仮御所で天皇に進講する元田（後ろ向き）。（堂本印象画、聖徳記念絵画館蔵）坂本多加雄『明治国家の建設』p217より複写。

者・加藤弘之、漢学者・元田で和漢洋のバランスをとったが、福羽と加藤が元老院議員に転出したため、侍講は元田一人が長く謹めることになった。誠実な勤めぶりに天皇の信頼は厚かったようである。天皇もまた成長するにつれて国民を愛するようになり、元田らが天皇親政を言上すると天皇もその

気になっらしい。そうした時期の金沢師範学校の事件であった。元田は早速、^{しりぞ}欧米模倣の教育を退け、国体主義（日本の伝統を守る）を掲げる天皇親政を上申した。それが「教学大旨」であった。

これに対し、これから政権を担おうとする伊藤博文は早速、^{はんぱく}反駁した。それが「教育議」である。①風俗の乱れは開国で外国人が日本に増加したと封建秩序がなくなったことや内乱のためで、教育の責任ではない。②天皇中心の国教（国民の道德）をつくることは反対である。国教は多くの賢人の議論の上で決めねばならない。③高等教育は科学を重視すべきである。以上のような主張で、明治10年代末からの諸学校令体制と教育勅語問題にかかわる。これに対し元田は一つ一つ^{はんぱく}反駁した。これが「教育議附議」である。伊藤の維新以来の現実の教育に立っての論述に対し、元田は聖天子という観念論で対応するのでこの論争はかみ合わない。ただ一点、伊藤が「教員心得」を出すべきだとしたのに対し元田は「至言なり」と賛同している。当時、民権運動が盛んになったが、過激で観念論的な士族民権と実利的な豪農民権に分かれていた。小中学校の教員の中に自由民権を叫ぶ者がかなりいたが、それらの多くは士族民権であった。伊

藤は内務卿の立場から道路や堤防の工事を含む豪農民権には理解があったが、観念的で理屈っぽい士族民権が嫌いで、それ故、民権的教員を追放しようと策していた。伊藤は初期民権運動に一程の理解を示していたが、教育令作成過程で民権運動と手を切ったのである。

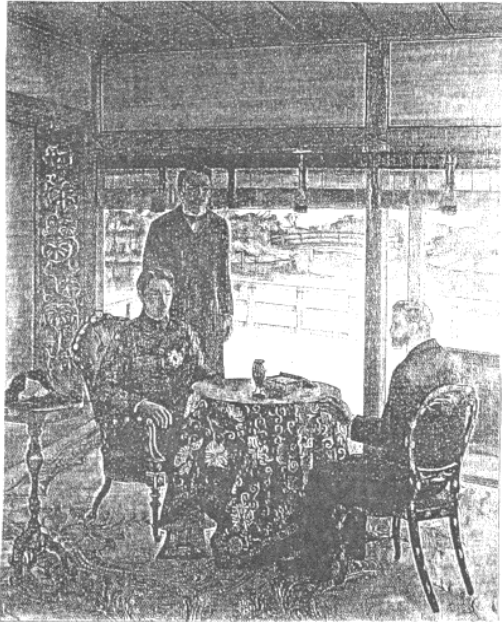
大久保内務卿の跡を継いだと自認する伊藤内務卿は中央と地方の政界に威力を持たねばならなかった三新法の制定で地方政界の人事にも顔がきく。中央政府は^{だじょうかん}いまだ内閣がなく、^{ともみ}太政官であるから岩倉具視と組んで人事を動かした。このような時に教育令がはじまったが国民皆学の小学校は地方政治に密着するから難問が続出する。文部省学監ダヴィッド＝マレーと文部大輔・田中不二麻呂の教育令は学制の理念・精神をもとにして、^{ほころ}綻びた部分を手直しするが、^{びほう}そんな弥縫策でこの難局が切り抜けられるだろうか。伊藤としては敵対するものには断乎、戦い、圧伏させるような文部卿を求めたかったのであろう。

新しい文部卿には元土佐藩士・河野敏鎌に白羽の矢が立った。河野は江藤新平の推挙で司法島を歩むようになったが明治7年、佐賀の乱が起ると九州に出張、臨時裁判長になって江藤を審問し、^{さら}江藤を晒し首に処した。^{れいこく たくい}冷酷、類まれな人物である。当時、河野は元老院の副議長をしていたが、岩倉と伊藤の説得に承諾した。そうなれば、田中不二麻呂文部大輔の処置をせねばならない。この時、^{にわか}田中は九州地方を巡視中であつたが、^{にわか}「俄に帰京の命を受け、東京に帰ったところ、司法卿に移された。田中を文部省から追い出す電光石火の人事である。河野は直ちに部内改革を行い新設の官立学務課長に浜尾新、地方学務課長に辻新次、同副長に久保田讓、編集局長に西村茂樹、内記所長に権大書記官島田三郎を配して陣容を整えた。「改正教育令」の原案は河野文部卿の指揮のもと、島田三郎、久保田讓の両書記官によってつくられたことは、その上申書からうかがえる。改正の要点は教育実施上、政府の干渉を強めることであつた。教育令と改正教育令の条文をみると同じようでわかりにくい、例えば第9条、「各地方ニ於テ每町村或ハ数町村連合シテ公立小学校ヲ設置スベシ」と教育令にあるが、改正教育令は「各町村ハ府知事県令ノ指示ニ従ヒ独立或ハ連合シテ其学

齡兒童ヲ教育スルニ足ルヘキ一箇若クハ数箇ノ小学校ヲ設置スベシ」と細かくこま指示している。教育の実権を町村の人民に放任せず、府知事県令を通して政府が実権を握り責任をとるという姿勢を示している。故に改正教育令を「強制教育令」と言い、これに対する教育令を「自由教育令」と言うのである。「改正教育令案」は13年12月、元老院で審議された。元老院議長・有栖川宮は去り、学制制定時の文部卿大木喬任に代り、副議長は河野敏謙から宮中派の佐々木高行に替っていた。文部省側からは文部卿河野敏謙はじめ、大書記官島田三郎、少書記官久保田譲だんがいが出席。河野文部卿の教育令弾劾演舌を法規からよく保佐した。事前に手を廻しておいたのだろうか。出席者は少なく、うるさ形かた みんけんの民権論者の欠席が多かったせい、審議は二日間という短時日で終り、「改正教育令」が成立したのである。翌14年4月、河野文部卿は新設の農商務省に転じてその卿となり、文部卿には元老院の審議官福岡孝弟が就任した。

河野敏謙と かまのこのあざとい行動は何と言うべきであろうか。日本の教育改革に理念や情熱を持っていたとも想われぬ。上司から命じられればあらゆる知謀めくを巡らして成就じょうじゆし出世の階段たんげいをかけ上げる端倪すべからざる高級官僚のようである。

丁度同じ頃、開拓使官有物払い下げ事件が起った。北海道の開拓使廃止を目前にして開拓使長官・黒田清隆は巨額の財政投資を行ってきた官舎・倉庫・地所・官船や諸工場・牧畜場・鉱山などを開拓使の官吏や関西の政商に払い下げ、廃止後も諸事業を継続しようとした。関西の貿易商会の中心人物は大阪商法会議所の会頭ごだいともあつ・五代友厚であったが、払い下げの条件が全部で38万7000余円という低額で無利息30年賦という安さだったので世論が憤激した。払い下げは14年7月に行われ、政府は8月1日、これを認可した。しかしこの経緯が民間に漏れて新聞紙上や政治演説会で論難の火の手があがった。政府は苦境に立ったが有効な手が打てない。それは政府部内に大蔵卿の大隈重信が払い下げに對立的な岩崎（三菱）と結んで払い下げ反対の世論あおを煽っているという大隈陰謀説が政府内に流布されていたからである。対策に苦慮した政府は東北巡幸から帰られた天皇のもとで御前会議を開き、開拓使官有物払い下げの取り消



明治天皇、グラント将軍と対話
聖徳記念絵画館蔵

しと大隈およびその一統の^{ひめん}罷免を決定した。ここにおいて維新以来、財務を^{あず}預かる大蔵卿大隈と内務卿として大久保内政を受け継いだと自認する伊藤博文が対立的な道を歩むようになる。即ち民間に下野した大隈は英国流の改進黨をつくり、野党として政府を攻撃するよう構えたのに対し、伊藤はプロシャ風の政治を学び、太政官制をくずして内閣制をつくり初代総理大臣になる。このように観ると「改正教育令」が実施され始めた明治14年は大隈追放の、明治14年の政変と時を同じくする。教育史

の考究に当って明治10年代を二分して明治13年までを学制崩壊後の後始末、14年以後を諸学校令体制への準備期と位置づけるのも一案ではないかと想い、そのように決めた。次回に述べる「中学校教則大綱」と「文部省示諭」は過去の反省の上に立ってはいるが、より諸学校令体制へ向かっての暗示的行為としてみると分かり易い。よって爾後、^{じご}そのように書いてゆく。

さて以上、述べてきた明治10年代はじめの頃、若き明治天皇はどのようであったろうか。北陸御巡幸から東京にお帰りのある日、文部省の高官が^{しこう}伺候した時、西洋の教育事情ばかり調べないで日本古来の教育を調べよとの御沙汰があった。これがきっかけとなって『日本教育史資料』の編さんの大事業がはじまるのである。同じ明治12年8月、アメリカ南北戦争の北軍総司令官で18代大統領グラント将軍と宿泊先の浜離宮で会談した時は、米国の議会制度や通商貿易について質問、教えを請うている（明治天皇とグラント将軍の会談を詳細に叙述し

たのは木村毅の『明治天皇』日本歴史新書である)。明治10年代はじめの日本の政治的文化的立ち位置を考える時、若き明治天皇はバランスのとれた思考のできる人物であったと想う。

以上は拙論「明治10年代前半における中学校の設置問題」のタイトルで『東京文化短大紀要6号』(1985年)に掲載したものを本稿の表題に合わせて書き直したものである。

参考文献

土屋忠雄『明治前期教育政策史の研究』

坂本多加雄『明治国家の建設』

木村毅『明治天皇』

戦後・日本教育史研究にかかわる学会・研究会の回想 その1

かんべ やすみつ

神辺 靖光(ニューズレター同人)

1955(昭和30)年8月、北海道大学でおこなわれた日本教育学会で東京教育大学の梅根悟教授が教育史学会の結成を提案し、56年4月の日本教育学会開催中、会場の東京学芸大学の会議室に有志が集って教育史学会が成立した。私は大学院生の身分でありながらこれらの場に立ち会い、今日まで会員として在籍し、その後続出した日本教育史関連学会、関連研究会等に関係して馬齢を重ねた。よって体験した日本教育史関係の学会・研究会の諸相を語りたい。

1. 教育史学会成立

昭和30年8月の日本教育学会で私は始めて「中世大和猿楽の稽古」と題する研究発表を行った。その部会が終ると梅根悟教授が現れて教育史学会結成を提案し、翌年5月に予定された次回の教育学会で発会させたいと述べた。翌昭和31年5月、日本教育学会の会場になった東京学芸大学の大会議室に集った会員数十名によって石川謙会長、梅根悟事務局長が承認され、教育史学会が正式に発足した。この時の成員は殆んど大学の教授・助教授級の学者で、大学院生らしいのは私を含めて2、3人であった。

2. 学会首脳の活動

教育史学会成立以前から学会首脳は論文や著述また講演その他のジャーナリズムで活躍していたが、教育史学会成立以後、その活動は顕著になった。目ぼしい所で東京文理科大学系では梅根悟氏と倉沢剛氏、東大系では海後宗臣氏と平塚益徳氏、私学系では大正新教育の流れである小林澄兄・原田実の両氏、また文検テキストグループ系では武田勘治、三浦藤作両氏がいた。文検テキストグ

ループというのは戦前、中学校教諭への昇格を望む小学校訓導が、かなりいたが、それには文部省検定試験に合格せねばならなかった。検定試験(文検)には志望の国語、数学、地歴等のほか、教育史の試験があった。その受験用の教育史教科書をつくっていたのが武田勘治と三浦藤作の両氏であった。武田・三浦の両氏は戦後の教育史学会でも活躍する。このような陣容で戦後の1950年代、教育史学会は盛況を迎えた。研究分野の分担は次のようであった。

A-a 日本教育史・古代～近世…石川謙、尾形裕康、大久保利謙

b 日本教育史・明治期以降…海後宗臣、土屋忠雄、仲新

B 西洋教育史…石山脩平(ギリシャ・ローマ教育史)、長田新(ペスタロッチ研究)、原田実(ジョン・デューイ研究)、小林澄兄(労作教育)

C 東洋教育史…多賀秋五郎(中国教育史)

以上の外、梅根悟氏の活動は目覚ましく、各国別の教育史を門人に研究させ、昭和49年、『世界教育史大系』を完成させたのである。

3. 日本教育史学会と野間教育研究所

教育史学会は公式の学会であるが、当時、別に戦前から続く私的な日本教育史学会があった。講談社の教育研究所と一身体で、メンバーが教育史学会の幹部と重複していた。同研究所は講談社の創立者・野間清治がはじめたものである。講談倶楽部の発刊で大当たりをとった野間は少年倶楽部、少女倶楽部、婦人倶楽部を次々に刊行して大正昭和初期の雑誌界に君臨した。彼が発行する雑誌は巷間伝えられる講談^{はなし}を題材にするが、大正昭和初期のモダンなセンスで中流社会の理想に塗り変える。社会的正義心の筋金通っているから「文部省の出店」と陰口をたたかれた。ところが野間清治は大の文部省嫌いで当時の小学校教育に反旗を翻していたのである。大正新教育の支持者であったように想う。戦後、すぐに教育研究所設立を思い立ち、石川謙をその所長に任命した。石川謙について語らねばならない。

石川謙は愛知県の生まれ、生家が貧しかったので親戚を転々とさせられたが、

小学校の成績がよかったので褒賞金^{ほうしょう}で高等小学校まで進学、15歳で尋常小学校見習教員、17歳で代用教員。明治44年上京、文検に合格して公立尋常小学校訓導をしながら教育学者を目指した。大正9年渡米してワトソンビル市の日本語学校の教師をしながら教育史の研究を開始、10年スタンフォード大学でカバリー教授から教育史を学ぶ。11年、ドイツに渡り、ライプチヒ大学に入学、欧米教育通史を読み尽くした。大正12年、関東大震災のさ中に帰国。翌13年、法政大学講師就任以後、大学、専門学校^{せんもんがっこう}の講師を重ね、昭和4年、和洋女子専門学校教授に就任してから生活が安定した。研究面では昭和2年、帝国学士院の推せて東照宮三百年記念会から5年間1,000円の研究費を受け、江戸時代庶民教育の発達を研究して『日本庶民教育史』^{はつだ}を発兌。次いで6年、有栖川宮記念奨学金^{ありすがわのみや}で石門心学史の研究に従事、年々1,000円の研究費を受けた。13年、東京女子高等師範学校教授になって官立高等教育における地位を不動のものにしたが、さらに16年1月、東京帝国大学より文学博士の学位を受けて学界最高の地位を獲得した。小学校見習教員から出立した稀有^{けうう}な出世であるし、School Boy をしながらわずかな食費で外国留学した成果としても立志伝中の成功者である。

昭和43年4月、私は石川謙の喜寿祝に賛同者の一人として出席したが驚いたのは銀行クラブ会館である。東京駅真近かのこのビルは何の変哲^{へんてつ}もないこのビル群の一つだが、会館の内部は銀行頭取連^{とうどり}が来るだけあって贅^{ぜい}を尽くしたものであった。主賓席には石川謙氏と皇弟・高松宮ご夫妻、日本大学の古田重二良総裁が並んだ。歴史に残る日大争動が勃発した時で、古田総裁は時の佐藤内閣の金庫番と噂されていた。石川謙氏が日大附属教育制度研究所の所長になった縁故^{えん}で来場したのだろう。日大のこの研究所は自民党系代議士の秘書クラスの留り場のようでもあったが、これ以上はふれまい。石川謙はこのように財界とどこかでつながりを持っていたように想う。苦労を重ねて勉学した人の一面である。氏の祝賀会は300名近くの人々が集り盛会裏に終わった。翌年、氏は老衰のため日大駿河台病院に入院、7月、同病院で死去した。北鎌倉・東慶寺で葬儀。私

も葬儀に参列したが参会者は700名を越えた。

石川謙氏が後輩の教育史研究者に遺したものに、^{のこ}日本教育史学会、があった。昭和が戦時体制に入る直前のことらしいが、当時、有力メンバーの一人であった原田実氏によると東京女高師の一室を借りて石川謙はじめ、新教育の面々や文献テキストグループ、戦後、野間研に集った若い教育史研究者が会員だった。戦時色が強くなると危険を感じて原田実の私宅で会議したこともあったと言う。この会合が敗戦後、野間教育研究所のメンバーになった。それ故に戦後再開した日本教育史学会は石川邸で開いたり、講談社の一室で開いたり、その性格が不明になったのである。その間の事情を熟知している原田実氏は「石川さんの学会」と言っていた。

私がこの石川謙の学会に出席するようになったのは早大大学院生をやめてからであるから1955～56(昭和30～31)年頃からだと思う。毎月第四土曜日の午後一時から、会場は石川謙氏の職場であるJR水道橋駅近くの日大附属教育制度研究所か講談社の会議室であった。日大教授の土屋忠雄、東京学芸大助教授の結城陸郎、文化服装学院大の武田勘治教授、川村短大の片山清一教授、慶応大の中山一義教授などがレギュラーメンバーであった。そのような^{そうそう}錚々たるメンバーの中に大学院を終ったばかりの若僧の私が入り込んだのである。例会はこのメンバーや時に東大や慶応の若手研究者の発表があって後、討議。最後に石川謙氏の講評で終ると言うものであったが、石川謙氏の講評は常に激励で、特に若手研究者に対しては暖かい激ましの言葉があった。

石川謙氏が亡くなって日本教育史学会の会長は慶応の中山一義教授が引き継ぎ、事務局として石川謙の子息の石川松太郎氏が登場してきた。ここで石川松太郎氏の経歴を略述しよう。

豊島師範附属小学校から東京市立一中→東京高等師範学校→東京文理科大学へて同大学の特別研究生になった。東京のモダンな一流小中学校から教育界の最高エリートの道を歩んだと言えよう。戦後、東京女子高等師範学校

で教育学会があった時、某会員がアメリカ流の児童中心自主的カリキュラムの即時実施を叫んだ。その時、会場にいた石川松太郎氏が立ち上って、「ここは学問の場だから扇動的な言動をするな」と舌鋒鋭く反論した。傍聴していた私は「我が意を得たり」とばかり興奮して盛大な拍手をおくった。そのような颯爽とした松太郎であったが、私が石川謙氏主宰の日本教育史学会に出席した数年間、ついぞその姿を見せなかった。石川謙氏が晩年、日本学校史の研究のため、全国諸府県の教育諸史料を搜索した時、松太郎氏が老いと病弱の父を助けて献身したことは学会で語られていたし、石川謙著『日本学校史の研究・あとがき』に詳述されている。そうした繁忙の中はんぼうでも東京で石川謙主宰の日本教育史学会は続けられていたが、松太郎氏は顔を出さなかった。謙氏が亡くなってから会場は中山会長の慶應義塾の塾監室に移り、やがて目白駅近くの謙堂文庫・石川松太郎邸の研究室に替った。この頃、どういう訳か中山会長は松太郎氏をよく怒鳴りつけていた。その理由はわからないが古参の会員は一様に松太郎氏のことをよく言わなかった。そして以下の秘話を囁く。多くの先輩研究者の共通話題になっていたから秘話とは言えないだろうが、松太郎氏は母校の東京教育大学に学位請求論文として「往来物に関する論文」を提出した。当時、日本教育史の主任教授は唐沢富太郎氏で主に国定小学校教科書を分析した『教科書の歴史』を公刊して「洛陽の紙価を高からしめた」と巷間騒がれた。父謙氏由来の教科書研究「往来物」で学位請求した松太郎氏はどんな態度でのぞんだのだろうか。噂さによれば尊大な態度であったため、学位請求論文に失格したと言われている。

4. 教育史学会長独占者の顛末

話を教育史学会の会長に戻そう。初代会長石川謙の後を梅根悟が継ぎ、次いで海後宗臣、林友春、土屋忠雄と続き、6代目会長に石川松太郎氏が就任した。激動の昭和の時代から平成に移ったこの頃は世相が大きく変わったが教育史学会も様変わりしていた。まず学会員が急増加して、戦後各地の大学院で学んだ

各世代の研究者で溢れた。そして多くの研究者が近代日本教育史に集中し、相対的に西洋教育史、東洋教育史の研究者が減少した。教育史学会も変わらざるを得ない。旧来のような個人の研究発表ばかりでなく、各種のグループ研究の発表やシンポジウムが盛んになった。博学で学会員の研究状況を微細に調査していた石川新会長にとってこのような状況は打^うって付^つけであった。会長自ら司会を買って出たり、発言者の一人になったり、適切なジョークを交^{まじ}えながら討論を活性化させた。また学会の前日、史料見学会を催したが、父謙氏の史料調査に同行した経験があるから、企画・案内にも抜かりがなかった。また教育史学会会長の顔を利用して学生用の日本教育史の教科書や教育史叢書の出版も盛んに行った。このような場合、松太郎氏は序言や概説、総括を担当し各章は若手学会員の分担執筆にするのが常であった。その典型は昭和の末年頃、思文閣出版から刊行した『都道府県教育史シリーズ』であろう。松太郎氏は監修者になって直接筆をとらなかったが20冊を刊行して途中で終わった。企画と研究執筆者の選定に松太郎氏はかかわったがうまくゆかず優劣がある。

同じ頃、映像界で教育史を放映することが始まった。浜田陽太郎、石川松太郎、寺崎昌男の企画編集によるNHK教育テレビ「教師の時間」に放映された「近代日本教育の記録」と放送大学客員教授・石川松太郎が企画した「教師の歴史」がその権輿^{けんよ}（はじまり）であろう。私（神辺）はNHKでは「攻玉塾 — 近藤真琴の教育活動」に出演したが、対談者・松太郎氏の話の引き出し方は巧妙であった。放送大学での私の分担は「幕末維新期の教育」「義務教育の展開」「明治期における中等高等教育」等、多岐にわたった。これらの企画は事前に松太郎氏とプロデューサー、ディレクターと綿密な打合せをするのだが、そのうち私も同席して意見を述べるようになった。このような放映は出演者の良否が鍵^{かぎ}になる。なによりも主題の研究者でなければならない。松太郎氏はそれら研究者を熟知^{じゅくち}していた。教育史学会の会長になりたがる理由はこれだなと直感し、その遠謀深慮に驚嘆した。

話はこれより若干^{さかのぼ}遡^{さかのぼ}り、昭和の末年になる。全国地方教育史学会の創立者で

会長の仲^{なか}新^{あらた}氏が病いを理由に会長辞任を幹事会に申し出た。私（神辺）も幹事の一人だから駆けつけると、後任会長は幹事会で推せんしてくれ、私（仲氏）が任命するとのこと、幹事全員が押し黙っているので私（神辺）が幹事最高年齢の名倉英三郎氏を次期会長に推した。反対者が居なかったから解散したが、二、三日後、名倉氏が拙宅にきて、自分は辞退するから石川松太郎氏の次期会長を了解してくれと言う。『そんな馬鹿な話があるか』と私は憤^{ふんぜん}然としたが後の祭り、二代目全国地方教育史学会会長に石川松太郎氏が就任した。こうして松太郎氏は教育史学会と地方教育史学会、それに父ゆずりの私的な日本教育史学会の会長を兼ねることになった。地方教育史学会の会員は全員が教育史学会員であり、研究発表も共通していたから松太郎氏が新会長になっても斬新さを演出する余地はなかった。こうして松太郎氏の教育史学会会長は14年に及んだ。この間、次第に不満が高まり1995（平成7）年、寺崎昌男氏が新会長（代表理事）になった。次いで99（平成11）年、松太郎氏は全国地方教育史学会長も辞任した。

『月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』
刊行要項(2015年6月15日現在)

1. (目的) 広い意味で「現代の大学問題へのアプローチを視野に入れた研究」を各執筆者が互いに交流し、研究を進展させていくことを目的にこのニューズレターを発行します。
2. (記事のテーマ) 記事は、広い意味で現代の大学問題へのアプローチを視野に入れた研究であれば、高等教育史だけでなく中等教育史や初等教育史なども含めた幅広いテーマを募集します。
3. (刊行頻度・期間) 研究進展のペースメーカーとするため毎月刊行し、最低限3年間は継続します。
4. (編集委員会・編集世話人) 発行主体は編集委員会とし、編集責任者として編集世話人を設け、当面は富岡勝と谷本宗生が担当します。編集委員は、執筆者の中から数名程度募集します。
5. (執筆者) 執筆者は、最低限1年間参加し、原則として毎月執筆してください。ご希望の方は、編集世話人までご連絡ください。執筆者は、刊行経費として毎年600円を負担してください。
6. (記事の責任) 記事の内容については、執筆者で責任をもって執筆してください。参考文献・引用文献の出典を明らかにするなどの研究上の基本ルールはもちろん守ってください。また、ごくまれに、編集世話人の判断によって記事の掲載を見合わせる場合があります。
7. (記事の種類・分量) 記事の種類は、論考、研究上のアイデア、史資料の紹介、先行研究の検討など研究に関するものでしたら何でも結構です。記事1本分の分量は、A5サイズ2枚～4枚ぐらいを目安とします。
8. 毎月の刊行をスムーズに行うため、レイアウトなどは簡素なものにとどめます。世話人によるニューズレターの印刷は、国会図書館献本用などごく少数にとどめます。執筆者にはニューズレターのPDFファイルをメールでお送りしますので、各執筆者で必要部数をプリンターで印刷するなどして、まわりの方に献本してください。
9. ニューズレターの内容は、下記のホームページで公開します。
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/komiyama/gen-dai-kyou-ken/>
10. ニューズレターを中心とした研究交流をしていきますが、年に1回程度は、必要に応じて執筆者の交流会を開催します。
11. 以上の内容を変更したときは、この要項を改訂していきます。

以上

短評・文献紹介

本年8月初めの千葉テレビの報道によれば、市川市にある私立大の千葉商科大学が記者会見を行い、2025年4月から、社会により役立つ実学を目指すべく、現状より1学部減らす学部再編を断行すると発表したといっています。当該理事長の弁では、「18歳人口が減少する中で、社会に絶対に必要な大学にならなければ生き残れない」と危機感を強調したうえで、153人居る教員の43%を対象にした人事異動を実施し、重複や分散していた大学のリソースを集約させ、建学の精神である「有用の学術」社会に役立つ実学の教育を推し進める・・と示しています。合理的な大学経営の観点からみると、たしかに時宜に応じた必然的な動きなのかもしれませんが、このような学部再編の意図や狙いが、きちんと受験生や在学学生・卒業生らにも事前に理解され伝わってなければ、せつかくの大学の産みの苦しみも逆効果ミスマッチに陥る危険性ははらんでいるかもしれませんね。(谷本)

前号につづき、父、貞男(1935年1月生まれ)が横浜市立鶴見工業高等学校夜間部・新聞班の卒業記念誌『白雲』第2号(1954年3月発行)に書いた「オタマナクシ日記から」の一部を紹介したい。

昭和二十五年九月一日(金)

製造部の給仕から重役室附の給仕になった。同じ給仕でも破格の昇進だ。それはいいが社長から「チビチビ……」と呼ばれるのが癪に障る。まるで犬でも読んでいるみたいだ。成程十五才にもなっていて四尺八寸しかない身長では「チビ」と呼ばれるのも無理はないが、来客の前でもおかまいなしに「チビ! お茶持つてこい」ではあんまりだ。

一般的には1尺=約30.3cmで1寸はその10分の1なので、「四尺八寸」は、約145.4cmとなる。戦後、栄養が不足していたため、ある時期まで背が低く、後に166cmぐらいいまで身長が伸びたと本人が言っていたので、おそらく15歳ごろまでは身長が150cm未満であったのだろうと思われる。(次号につづく) (富岡)

会員消息

本年9月中旬～11月下旬にかけ、東京都の府中市美術館で開催されている、インド細密画展について、同美術館学芸員の音ゆみ子さんが、東京新聞の紙面(2023年9月13日、7面)で、インド細密画の魅力を分かりやすく解説されていました。作品「楽器を持つ

女」(縦16.6cm×横10.5cm、ラージプト絵画、1760年ころ)については、「弦楽器を肩に載せ、物憂げに遠くを見つめる美しい女性。真珠や宝石のアクセサリ、豪華な刺しゅうの衣装もまばゆい。ベールから透ける髪や肌まで繊細に描き出されている」とし、「小さな画面に描かれたのは、『絵とは一対一で対話するもの』という絵画観があったから」といいます。音さんによれば、ヨーロッパでの芸術志向とインド細密画とは根本的な違いがあり、ヨーロッパ絵画は「聖書や神話の物語を大画面に壮大に描き出した絵」であり、作品から発せられる強大な力を浴びるように鑑賞するという芸術志向に対し、「インド細密画は心静かにじっくりと味わう絵画だ。当時の宮廷人にとって、絵を見ることは教養を高めるだけでなく、魂を清める行為でもあった」と指摘されていて、なるほど・と感じました。(谷本)

『関西教職教育研究』第13号に拙稿「校則の在り方」を考える特別活動授業モデルの開発—博物館の人的・物的資源の活用を事例に—」が掲載されました。本レターで連載している「子どもたちと考える校則」を踏まえての執筆です。

これまでの連載では、『生徒指導提要』、子どもの権利条約、諸外国の校則、校則見直しガイドラインなど、校則に関係するようなテーマを複数取り上げ、「校則と〇〇」と題して整理してきました。

今後も、自分のペースを大切にゆっくり連載を続けていこうと思います。(八田)

母校(早稲田大学)の学園祭が、4年ぶりとなる制限のない早稲田祭として開催される。数十年ぶりに行ってみようと思います。というのは本務校の学生が早稲田のサークルに所属しているようで…、行かなければならなくなりました。(山本剛)

久々の寄稿となってしまいました。ポストコロナは良いですが、コロナ中に削減された運営体制のまま、コロナ以前の業務量に戻り、更に増やされようとしています。授業も対面への回帰ではなく、ハイブリッドに移行せざるを得なくなりました。研究の話に早く戻れると良いのですが、とりあえずはコラムでの復帰です。と言いつつ実はコラムの文章はChatGPTが書きました。真偽のほどは皆さんの情報リテラシーでご判断ください。とか言ってみたりして。(小宮山)

最近、やりたい仕事+研究の分量と進めるスピードのバランスがあまりとれていないことを自覚しています。まずは規則正しい6時間近くの睡眠を実行しようと思います。(富岡)